

地域の福祉課題に  
行政と地域の協働で取り組む

2月24日(火) 県総合福祉センターにおいて、「平成20年度地域の福祉力を高めるセミナー」が開催された。あまり聞きなれない言葉だが、地域の福祉力とは、福祉の専門職だけでなく地域住民の協力とともに、地域の様々な福祉課題等に対して、対応・解決していく力のことである。今回のセミナーでは、行政と地域住民との協働による新しい福祉活動が求められていることを踏まえて、県内で先進的に取り組んでいる「住民同士の支え合い実践活動」事例報告が行われた。

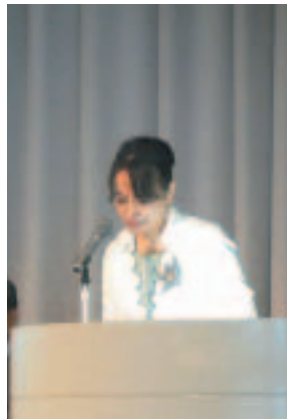
◎実践報告1  
子育てサロン実践活動

南風原町与那覇子育てサロン「ひまわり」

サポーター 新垣和代氏  
あらかきかずよ

子育てサロンは、身近な場所で子育て同士の親子が気軽に交流し、情報を交換できる場として定期的に開

催している。始めた年は月1回の開催だったが、お母さんたちの要望により2年目から週1回になった。「ゆんたく会」が活動の重要な部分を占め、他のお母さんやサポーターらと「おしゃべり」することで情報を交換や相談したりと、お母さんたちの居場所となるように心がけている。また、サロン活動に参加する事で、お母さん同士の繋がりも出来てきて、子育ての輪が広がりがつつある。



▲新垣和代氏

◎実践報告2  
住民の支え合い活動

浦添市茶山自治会長 儀保博信氏  
ぎほひろのぶ

自治会の中に、専門部を設けて地域活動を行っている。専門部には、福祉部、環境部、健康促進部等があり、各専門部に様々な地域活動を任せることで、協力者や参加者が増えている。また、自治会と学校が連携し、地域高齢者が小学校で子ども博物館を作り、子ども達とのふれあいや指導をしたり、また学校の花壇整

備をしたりと、活躍している。



▲儀保博信氏

◎実践報告3

災害にも強い伊佐区を目指して

宜野湾市伊佐区地域支え合い活動委員会

副会長 伊佐善亀氏  
いさぜんき

地域懇談会で明らかになった住民の不安や疑問を、「災害時避難所生活シミュレーション」のモデル指定を受けることで、実際に津波避難訓練や避難所生活シミュレーションを行い、その体験から現状や避難時に予測される問題、その解決に向けての話し合いを行った。住民・行政・社の連携強化だけでなく、この事業をきっかけとして今後のよりよい体制作りを目指している。



▲伊佐善亀氏

また、セミナー後半には、記録映画『いのちの作法―沢内「生命行政」を継ぐ者たち』の上映を行った。この記録映画には、日本で初めての老人医療費の無料化や乳児死亡率ゼロの達成で名高い岩手県旧沢内村(現代の西和賀町)における「生命尊重の理念」、生命行政を受け継ぎ、「健やかに生まれ、育ち、老いる」という、保健・医療・福祉が一体となった地域福祉への取り組みが上映され、参加者からは、「命を大切にすることを再認した」「全ての福祉を合わせ持った地域の自然と人の心が伝わってきた」等の声が寄せられた。

